ワクチン開発の現場でも活躍！ 唯一無二の流量計メーカー

株式会社アツデン
代表取締役
村上（むらかみ）　英一（えいいち）

Profile

大学卒業後、大手印刷会社に勤務し、2年で退社。その後、旅行代理店やオートテニス機械の販売など様々な事業を経て、1995年に株式会社アツデンを設立。卓抜した発想力で、超音波流量計など世界のトップシェアを誇る製品を生み出している。

半導体需要の高まりで流量計の供給量も上昇

私どもアツデンは、液体の極微量な流量を測定する「超音波流量計」をOEMで製作している工業用計測器メーカーです。「ニッチな分野でオンリーワン＆ナンバーワンを目指す」を実践しているだけに、製品の独自性とクオリティには自信があります。実際、第40回発明大賞で発明功労賞を受賞するなど、これまでにも高い評価をいただいてまいりました。

とはいえ、表彰されたからといって満足してはメーカーとして生き残れないでしょう。流量計はニーズが絶えることのない製品ですが、その時々に合った新製品を作り続ける必要があります。ちなみに弊社では、配管の外に挟んで流量を測るクランプオン式流量計や、配管がストレートに伸びた超音波流量計といった新製品をリリースし、好評を得ています。

私たちの製品が使われるのは、主に半導体産業になります。半導体の製造過程では冷却水、研磨剤、洗浄液など様々な液体を必要としますが、流量計はそれらの供給量を精密に測るために用いられます。近年はAI機器の普及によって半導体の需要は高まる一方で、それに伴って流量計の供給量も増える傾向にあります。

新型コロナワクチン開発を流量計の量産で支える

もう一つの主要な供給先が医療業界です。医療用として販売するには認可が必要で、弊社の製品に関しては8年かけてFDA（アメリカ食品医薬品局）の認可を得ました。これだけ時間がかかるのは、治験を何度も繰り返す必要があるからです。医療用として認可された流量計は15年間同じタイプを使わなければいけませんので半導体向け製品のようにリニューアルを繰り返す必要はないのですが、医療業界においては一度使用した機器はすべて廃棄して新調する「シングルユース」が主流ですので、出荷量自体はかなり多くなります。しかも、この1年は新型コロナウイルスのワクチン開発もあって需要が一気に伸び、半導体向けと合わせて弊社の出荷量は前年の約3倍になりました。

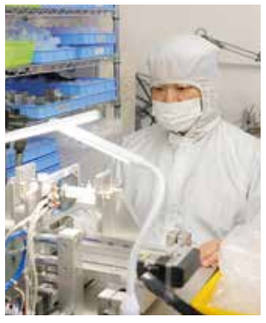
かなり手堅い市場ですが、新規参入は簡単ではありません。先ほど申したように認可を得るのに膨大な時間がかかりますし、費用も40億円はかかってしまいます。弊社が常に優れた業績を上げられるのは、このように競合が少ない環境で勝負しているからという側面もあります。

売上が好調なのは嬉しいことですが、ワクチン開発の一翼を担うことで社会貢献できていることも同じくらい喜ばしく思っています。医療業界での流量計の需要はさらに高まっていくでしょうから、我々は在庫切れを起こさないことを最優先させなければなりません。なんといっても人間の命が関わっているのますから、非常に重要なミッションと捉えています。

自社開発のロボットで安定した品質を維持

それもあって、東京本社と沖縄にある工場では量産体制を強化しました。人員を補強しましたし、生産を担うロボットの数も増やして膨大な受注数に対応しています。我々メーカーに求められているのは、画期的な新製品を開発することよりも、何万個、何十万個でも同じクオリティの製品を作ること。その点では正確無比な作業をするロボットが必要です。ちなみに、弊社が導入している産業用ロボットは自社で開発したものです。既製品ではどうしても理想の動きができないので、いっそのこと自分たちで作ろうという流れになりました。それくらい手間をかけなければ、ニッチで突出した製品を作ることなどできません。

おかげさまで、本年度は過去最高の売上を記録しています。この活況を支えてくれている従業員には、ベースアップやボーナスで還元していきたいと思います。良い会社か悪い会社かどうかは、従業員が辞めるかどうかを見ればわかります。ですから、経済的に安心できて退職者が出ない弊社は間違いなく良い会社（笑）。一般的な知名度こそ低いですが、世間の名だたる大企業とも肩を並べることができると、胸を張って言えます。



【写真左】東京都葛飾区にある本社内のラボ。こちらと沖縄の工場で量産体制を組んでいる。
【写真右】最終的な品質チェックは人間の目で抜かりなく。

企業名：株式会社アツデン
TSR 企業コード：29-705031-1
事業内容：超音波流量計の製造
設立：1995 年 11 月
住所：〒 124-0012
東京都葛飾区立石 5-7-10
TEL：03-5698-8684
WEB：http://atsuden.com

TSRの眼　○○○○○○○○○○○○○○20文字